

岡山畜産便り1960.08

編集後記

- ◎ 8月27日から1週間「草の週間」が行われるが、畜産発展の基礎となるべき「草を作ること」がまだまだ徹底しなければならないと思われる。鶏や豚についての対策も大いに考えなければならない問題であろうが、草作りはたしかに農業生産力増強の1大にない手には違いない。そうした意味で今月号には酪農試験場からいただいた牧草飼料作物関係の記事3編を載せることにした。

秋の草の週間

8月27日—9月2日

- ◎ 夏火鉢氏からいただいた「打ち水」と酪農試験場長の「御挨拶とお詫び」は、早くから原稿をいただいていたにもかかわらず、丁度7月号の校正を終わった後だったので、登載が遅れ時期を失った感じになってしまったことを深くお詫びします。